

【東京慈恵会医科大学附属病院 臨床研修基礎研究医育成プログラム概要】

プログラム責任者 石橋 由朗

1. 臨床基礎研究医育成プログラムの特色

東京慈恵会医科大学の建学の精神は「病気を診ずして病人を診よ」です。研究を通して病に苦しむ人を救おうとした学祖、高木兼寛の強い意志を引きつぎ、本学では1956年に私立大学として初の大学院医学研究科を設置し、医学研究を通じて医学・医療の進歩に貢献しています。当院の研修プログラムは、臨床研修と基礎研究を両立させ、将来の医学を担う基礎研究医を育成するために設置されました。研修2年目の選択期間（16週～20週）に基礎医学の研究を行いますが、研修開始前から所属する基礎系研究室との綿密な連携を行い、研修期間での研究がより有効なものとなるための体制をとっています。

本プログラムは学生時代に行っていた研究を完遂したいもの、今まではやったことはないが基礎研究に興味があり研究の初歩を学びたいもの、すでに基礎研究者になることを決めていて大学院入学も検討しているものなど、様々なニーズに対応しています。

本プログラム修了後のキャリアパス

- ①博士課程の標準年限の3年間への短縮
- ②本プログラムと大学院を通じて高い評価を得た場合は特別枠での有給教員として採用する
- ③大学院修了後、本学で研究を継続する場合は学内研究費の優先配分を受ける資格が得られる

2. 全科共通アウトカム

1. 診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動できる
2. 最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図ることができる
3. 臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行うことができる
4. 患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築くことができる
5. 医療従事者をはじめ、患者や家族に関わるすべての人々の役割を理解し、連携を図ることができる
6. 患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮できる
7. 医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献できる
8. 医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与できる
9. 医療の質の向上のために省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続けることができる

《コンピテンシー》

- (1) 自分で問いを立て、研究テーマを設定できる
- (2) 指導医と相談しながら研究計画を立案できる
- (3) 研究倫理に配慮しながら研究を実施できる

- (4) 得られた結果を多角的、批判的に吟味できる
- (5) 研究結果を発表できる

3. 方略

- (1) 遅くとも 1 か月目までに問いを立て、それについての文献をあたり、指導者との討論を通して研究テーマを設定し、研究計画書を作成する
- (2) 以降は指導者と共に研究を実施する
- (3) 教室内の他の研究者の研究にも必要に応じて参画する
- (4) 教室内で行われている論文抄読会に参加、発表する
- (5) 教室内での研究検討会にて途中経過を発表し、様々な研究者からフィードバックを受ける
- (6) 学内外の研究会、学会などで発表を行う
- (7) 基礎研究期間終了後にそれまでの研究成果をまとめ提出する
- (8) 指導者の支援の下、4 年以内に論文化する

4. 臨床研修を行う分野ごとの研修期間及び臨床研修施設

研修期間 ※各研修期間は原則として 4 週を 1 ヶ月として行う。

1) 1 年目

(1) 必修科目 (40 週)

内科 (16 週)、外科 (8 週)、救急部 (12 週)、麻酔科 (4 週)

※救急部門 (必修) において、麻酔科にて 4 週を上限に代用することができる。

(2) 前期選択科 (8 週) ※本院診療科より選択

2) 2 年目

(1) 必修科目 (28 週)

内科 (8 週)、精神神経科 (4 週)、小児科 (4 週)、産婦人科 (4 週)、地域医療 (8 週)

※地域医療研修は原則として 8 週行う。一般外来研修を地域医療研修中に行い (並行研修)、一般外来研修を 4 週行えない場合、不足分の研修を行う。

(2) 後期選択科 (20 週)

① 基礎研究 (16 週以上)

以下の分野のうち、研修開始時に届け出た研究室で 16 週以上の研究を行う。

環境保健医学、法医学、薬理学、分子行動科学、再生医学、細胞・統合神経科学、生化学・病態医学、熱帯医学・医動物学、器官・組織発生学、神経解剖学、筋生理学、細菌学・感染免疫学、循環生理学、分子疫学、医用エンジニアリング研究部、基盤研究施設

② 診療科研修 (4 週) ※基礎研究を 16 週とした場合

本院または分院 (葛飾医療センター、第三病院、柏病院) の診療科より選択

(3) 選択科目研修施設

後期選択科の診療科研修については、分院 (葛飾医療センター、第三病院、柏病院) での研修も可能とする。

5. 募集定員

1名

6. 応募手続

※本プログラムに応募するものは事前に臨床研修センターに連絡を入れてください。

- 1) 願書（採用申請書）
- 2) 履歴書（あれば今までの研究履歴）
- 3) 推薦状
- 4) 成績証明書
- 5) 医療系大学間共用試験実施機構が実施する CBT 個人別成績表の写し
- 6) 卒業証明書（見込み）

※1) 願書、2) 履歴書、3) 推薦状については、当院所定の書式にて提出すること なお、ホームページからダウンロードも可
履歴書には必ず写真貼付、印鑑を捺印のこと

7. 選考方法

当院選考委員会の選考（模擬患者との医療面接、小論文、個人面接（一般面接および基礎研究教室指導医との面接））を行い決定する。

※処遇については、一般プログラムと同様

8. 研修開始後の運用

- ・研修開始時に所属する基礎医学系の教室を決定し、オリエンテーションを行う。
- ・2年次の選択科研修期間に、前述の教室にて16週以上24週未満の基礎研究を行う。
- ・基礎研究を開始する前に、臨床研修の到達目標の達成度の評価を行う。
- ・本プログラム修了後、4年以内を目処に、作成した基礎医学の論文を研修管理委員会に提出する。
- ・本プログラム修了後、プログラム修了者の到達目標の達成度と臨床研修後の進路を関東信越厚生局に報告する。

9. 基礎研究医育成プログラム研修科目及び研修例

基礎研究医育成プログラム

第1年目					第2年目					
← 地域医療研修を除き全て本院にて研修 →										
16週	12週	4週	8週	8週	4週	4週	4週	8週	8週	20週
1年目 内科	救急部門 ※麻酔科にて 4週代用する ことがある	麻酔科	外科	前期 選択科	精神 神経科	小児科	産婦 人科	地域 医療	2年目 内科 ※総診にて 不足した 外来研修 を実施	後期選択科 ※このうち基礎研究を 16週以上実施

※各研修期間は原則として4週を1ヶ月として行う